



## 米子市埋蔵文化財センターたより



第13号

2014年6月

### 越敷山 80 号墳 —伯耆町内で数少ない横穴式石室—

平成 22 年度から継続して行っている岸本バイパスに伴う発掘調査は、今年度で現地調査が全て完了する予定となりました。

今年 4 月から調査を始めた金廻芦谷平遺跡では、越敷山から伸びる尾根上に越敷山 71 号墳と 79 号墳、80 号墳の 3 基の古墳が所在しています。そのうちの一基、越敷山 80 号墳は、横穴式石室を持つ古墳です。この古墳の石室は、畳二枚分ほどもある大きな二つの石を天井石として使用していますが、入口は狭く、石室内は人間が這って入るのがやっとという狭さです。しかし、内部には大小さまざまな大きさや形の石がきれいに積み上げられており、小型ながらも丁寧に造られた石室であることが分かります。入口は二枚の板石で玄室との境を区画していますが、残念ながら入口が開口しているため、すでに石室内は盗掘されて副葬品などは持ち去られていると思われます。



越敷山 80 号墳の横穴式石室

伯耆町内における横穴式石室をもつ古墳は、細見神社の境内にある吉定 1 号墳や西部広域リサイクル施設の近くにある岸本 7 号墳など数基が知られていますが、発掘調査された事例がほとんど無いため、横穴式石室がいつごろから、どのようにして広まっていったのか、良く分かっていません。

今回の調査は、伯耆町内における横穴式石室をもつ古墳の事例として、貴重な資料を提供してくれるものと期待しています。(佐伯)

## 発掘調査情報

### 鉄器の調査と保存 一観音寺狼谷山遺跡一

昨年度に調査した東宗像 21 号墳から出土した鉄器は、f 字形鏡板付轡一对、辻金具 3 点、鉸具 1 点、鉄鏃約 20 点です。

これらの鉄器は、長年の間、地中に埋もれていたため錆化が進んで錆が膨れて原形がかなり損なわれています。鉄器を実測し報告するためには、前号で紹介したように X 線撮影を行ったりして元の形を見極めなければなりません。そのためには錆の膨れを削り落したり、折れたものを接合しなければなりません。また、これ以上に錆化が進まないように薬品を含浸させ保存処理もしなければなりません。そのため錆落とし前に実測と写真を撮り、また、保存処理後に実測と写真を再度撮るなど細部に亘って検討していく作業を行っていきます。現在、東宗像 21 号墳の鉄器類は奈良県の元興寺文化財研究所に送って保存処理中です。(平木)



保存処理前の鉄器 (左 辻金具ほか 右 鉄鏃)

## 整理室たより

整理室では報告書作成作業の一環として、遺物の写真撮影が始まりました。

報告書の図版に掲載するために、遺構から出土した重要な遺物や接合・復元をした土器や石器などを撮影します。撮影作業は、センターに設置された写真撮影室で行います。色調や質の異なる遺物を正確に写すためには、角度や露出・シャッタースピードを計算して写しますが、最近ではデジタルカメラを利用することが多くなったことで、写真撮影作業が比較的簡単になりました。(小原)



遺物写真の撮影作業

## 遺跡シリーズ13 日下古墳群堂平支群 (くさかこふんぐんどうびらしぐん)

日下古墳群堂平支群は米子市日下地区に所在する古墳群で、大山山麓西端部の標高70～90mの丘陵上に分布する55基の古墳群です。

1990年に工場用地造成に伴って字堂平に所在する41基の古墳が発掘調査されました。発掘調査では円墳32基、方墳9基のほか石蓋土壙墓4基、土壙墓15基、横穴墓12基が発見され、4世紀～7世紀末にかけて造営された墓群であることが判明しました。

大きさが径13m前後の小さな古墳で埋葬施設には箱式石棺と木棺が多用され、副葬品も少なく、日下域の有力氏族の数家が代々造墓した古墳と考えられ、「村落古墳」とも呼ばれる古墳群と考えられます。この日下古墳群は、小地域の古墳の変遷と特色をよく物語っています。(小原)



日下古墳群航空写真

### コラムー古墳を掘る①

### 前期古墳 ー青木遺跡F地区ー

1971年から1977年にかけて行われた青木団地造成工事に伴って発掘調査された青木遺跡では、F地区の丘陵に古墳時代前期から中期の古墳17基が発見されました。このうち、古墳時代前期(4世紀代)の古墳は一辺10m前後の10基で大半が方墳でした。埋葬施設は、箱式石棺、合口土器棺、割竹形木棺と多用な形式が採用されています。副葬品は、鏡・刀子・鉄鏃・玉類など少量でした。このことから青木地域の小首長の墓だったと考えられます。特に青木11号墳の埋葬施設の合口土器棺は山陰の地域色の強いもので、山陰の代表的な前期古墳の普段寺1号墳や松本1号墳でも使われています。

古墳は大和政権の支配を表す政治的・宗教的記念物とされていますが、前期段階の山陰地方の古墳では、墳形や埋葬施設に在地色が強い傾向がみられます。(小原)



青木11号墳の合口土器棺

## センター・資料館日誌

- 4月12日 東広島市教委妹尾氏が遺物調査で来館された。
- 4月27日 福市史跡公園でつつじまつりが開催された。
- 4月30日 会見小・五千石小が遠足で福市資料館見学。
- 5月 8日 元興寺から再保存処理した陰田横穴墓鉄刀が返却された。
- 5月 9日 島根県古代出雲博物館・倉吉博物館へ遺物を貸出した。
- 5月11日 米子市体力づくり歩け歩け大会参加者が福市へ来館した。
- 5月14日 尚徳小学校がウォークラリーで来館した。
- 5月14日 史跡ウォーク「淀江の文化財を歩く」を開催した。(講師 佐伯)



淀江史跡ウォーク

- 5月21日 出雲市弥生の森博物館高橋氏が資料調査で来館された。
- 5月23日 鳥取県公文書館県史編纂室湯村氏が資料返却で来館された。
- 6月 8日 淀江古代まつり史跡ウォークの解説支援へ参加した。
- 6月10日 五千石小2年生が施設探検で来館した。
- 6月12日 尚徳小学校3年生が埋文センター

へ古代学習で来館した。

- 6月14日 米子市山陰歴史館友の会総会が開催された。
- 6月15日 考古学講座第1回「米子の考古学事始め」を開催した。(講師 佐伯)
- 6月20日 尚徳小学校2年生が施設探検で来館した。
- 6月23日 尚徳小学校2年生が福市資料館へ古代体験学習で来館した。



尚徳小学校3年生古代学習

## 編集後記

梅雨入りし雨の季節となりました。梅雨は現場の大敵で発掘作業が進みません。また梅雨が明けると、暑さが大敵となります。どちらにしても、発掘現場は大変です。

発行日 平成26年 6月 23日  
発行者 米子市埋蔵文化財センター  
指定管理者 (一財) 米子市文化財団  
電話 0859-26-0455  
Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp

